

## 校名：信州大学教育学部附属松本中学校

所在地：〒390-0871 長野県松本市桐1丁目3番1号 電話番号：0263-37-2212

記載日： 28年 5月 20日 記載者：賜 正俊 記載者役職：副校長

### 貴校の校風、おおまかな特色について：

本校は「たくましく心豊かな地球市民」を学校目標に据え、心身ともにたくましく、心が豊かで、国際的・地球的な視野をもち、かけがえのない生命と地球を守り、社会・人類の幸福に尽くすことができる人間の育成を目指しています。

また、「主体的に学ぶ生徒の姿」を目指し、二人担任制による複数の目で、生徒の学びと育ちを支援し、生徒の傍らに教師が共にある子弟同行を大切にしています。信大キャンパス見学や大学の先生の授業、大学生による夏期学習会などを実施し、信州大学との連携の中で学ぶ楽しさやおもしろさを実感する場を設けています。

長野県で初めてユネスコスクールの認定を受け5年目を迎えていますが、ユネスコスクールとして、持続可能な開発のための教育（ESD）にも取り組んでいます。

### 貴校の卒業生の活躍状況について：

① 追跡調査は実施していません。

### 貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

① 追跡調査は実施していません。

② 追跡調査は実施してはませんが、長野県教育委員会と良好な関係をもちながら人事交流を図っています。公立学校に戻ってからは、研究主任や教務主任など、学校のミドルリーダーとして中核的な役割を担っています。また、長野県教育委員会の指導主事、主幹指導主事などの役職に就き、教育行政に携わっている先生方も多く、研修会の企画・運営、学校訪問等を通して、各校の授業指導や管理指導などを行っています。

### 魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

#### <附属学校園ラウンドテーブル>

昨年度までは、毎年5月に「中学校教育研究会」を開催し、授業公開や授業研究会などを通して、本校の研究成果を長野県内、県外に発信してきました。本年度からは、「中学校教育研究会」と「附属学校園ラウンドテーブル」を隔年で開催することになり、このラウンドテーブルでは、本校だけではなく隣接する附属松本小学校、附属幼稚園を会場とし、授業公開とともに、教師の在り様について互いに実践をもとに語り合う場を提供します。以下は、ラウンドテーブルに対する思いと日程案です。

#### 1 ラウンドテーブルに対する思い

知識基盤社会を生きていく子どもたちと暮らす教師である我々自身が、学び続けることが求め

られています。私たちが、日々の実践や子どもたちとの営みについて語り合い、傾聴し合うことで、同僚性を築き、「教師としての私」への問いを深め、省察する実践者を目指したいと考えます。

私たちが追い求めるべきは、単に目に見える指導法・教授法のスキルアップではなく、それを支える目に見えない自己の子ども観、指導観を問い続けること、絶えることのない自己の在り方の再構築です。一人の人間・「教師としての私」は、各々が持っている経験上のみ存在しているのであり、その自己の経験の編み直しでしか「私」の変容はありえません。また、そうした先に、目に見える指導法が意味づけられるのだと思います。お互いの経験を語り合う中で、お互いの「観」を刺激し合える会にしたいと思います。

## 2 日程（平成 28 年度案）

(1) 日時 平成 28 年 10 月 15 日（土）

(2) 会場 メイン会場：附属松本小学校（サブ会場：附属幼稚園，附属松本中学校）

(3) 内容・日程

① 中学校授業公開（自由参観）	9：00～ 9：50
② 中学校 語る会	9：50～10：20
③ 移動	10：20～10：45
④ 幼・小授業公開（自由参観）	10：45～11：30
⑤ 幼・小 語る会	11：30～12：00
⑥ 昼食	12：00～13：00
⑦ ラウンドテーブルと講演会（講師：松木健一先生）	13：00～16：40
⑧ 解散	16：50

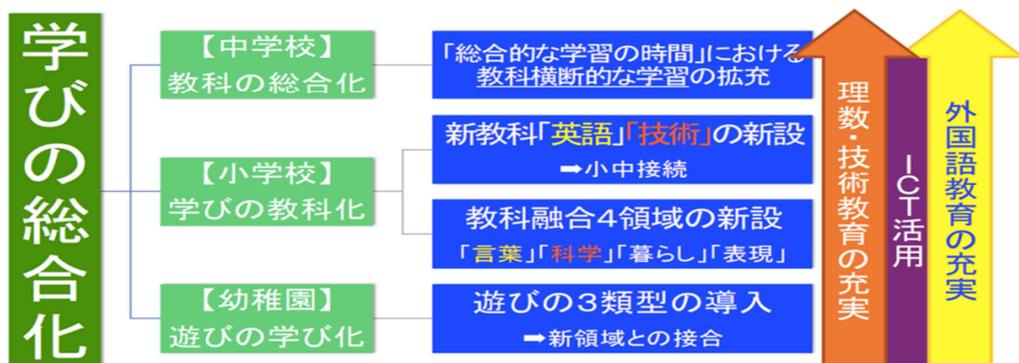
## <文部科学省指定研究開発学校に係る公開>（平成28年度～平成31年度）

文部科学省指定の研究開発学校として、幼小中12年間の連続的な学びを考える、幼小中一貫教育を目指しています。その中で、校種を越えた連携のあり方や一貫教育のあり方を提案します。

### 1 幼小中一貫教育で目指す学び

○学びの統合化を目指して構想している内容

- ・ 幼稚園—「遊びの学び化」…遊びによる学びの醸成→学びの3類型の導入
- ・ 小学校—「学びの教科化」…学びから教科の発生を顕在化→融合4領域の新設  
教科としての小中接続を保証→教科学習の強化
- ・ 中学校—「教科の総合化」…実生活における、教科学習の総合的な活用力を育成



## <実社会との接点を重視した課題解決型プログラムに係る実践研究>（平成27年度～28年度）

### 1 概要

総合的な学習の時間で、学級を母体とした教科横断的な探究学習活動を通じて、中学生が地域支援の担い手として自覚をもって、その解決に取り組む等、社会参画の実践力を育む学習プログラムを開発する。

### 2 学習プログラムのねらい

#### （1）実社会とつながり行動する態度の育成

（例：浅間温泉の再興を目指して自ら動き出して活動する姿）

#### （2）批判的思考力の育成

（例：再興のためのプログラム作りの過程における問題解決を図る姿）

#### （3）未来像を予測した計画力の育成

（例：浅間温泉の方の思いを汲み取りながら、地域の方と協働して企画する姿）

## <教職大学院>

平成28年度より、信州大学に教職大学院が設置されました。本校では、以下のような大学院の特色を活用して、教師の在り様や授業実践を考え合う場を提供しています。本校での研修が、他の拠点校などに生かされることを期待しています。

### 1 教職大学院の特色

#### （1）「教職基板コース」「高度教職開発コース」の設置

##### ①教職基板コース

新しい時代に対応できる新人教員育成を目指すコース。高度教職開発コースの院生と共同で問題解決を図る演習に参加する。

##### ②高度教職開発コース

学校改革・授業改善の中核を担う教員養成を目指すコース。学校現場における実践的課題に焦点を当て、その課題解決のために他の院生や勤務校の教職員からなるチームで取り組む演習を中心に据えて研修する。

#### （2）学校拠点方式の採用

学校現場をフィールドとし、実習を中核としながら具体状況に応じた指導のあり方や実践の省察を深化させることを重視する方式をとる。大学における講義・演習に加えて、フィールドワークや拠点校における実習及びチーム演習を実施する。

## 地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

本校が目指していることの一つとして、「様々な人とのかかわりの中で学ぶ学校」があります。地域の方々をはじめとした外部講師との出会いにより、本物に触れ、自分の世界を広げることは勿論、総合的な学習の時間では、学級ごとにテーマを決め、地域の伝統文化や自然を探究したり、地域の課題解決に取り組んだりしています。3年のあるクラスでは、実社会に接し、地域・社会の一員として参画しようとする意識を育てる学級の総合的な学習を構想し、松本市の浅間温泉の町おこしをテーマとし、地域の方と協力しながら浅間温泉大音寺山の植樹を行ったり、「浅間温泉手しごと市」へ参画し、おやきやガレットの販売をしたりしています。また、生徒会活動として松本城清掃や資源物回収、梅の収穫・販売などの活動を通して、地域とのかかわりを深めています。

## 附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

本校は、一般の公立学校と同様に、教育基本法及び学校教育法に基づいて生徒の教育を行うほか、附属学校として以下の3つの使命を担っています。予測困難な時代を迎え、多くの教育課題を抱えている中、この使命を果たしていくことが、大きな本存在意義をもつと考えます。

- (1) 教育実習…信州大学教育学部の学生の教育実習を行う。
- (2) 教育研究…先進的な教育の理論及び方法について実践研究を行う。
- (3) 現職教育…公開研究会やラウンドテーブルなどを行い、地域の現職教育に役立てる。

### (1) 教育実習

本年度、本校では、大学4年生を対象とした教育実習Ⅱでは50名、大学3年生を対象とした教育実習Ⅰでは58名の教育実習生を受け入れ、教育実習を行います。この実習においては、日々生き生きと活動している生徒の個性や能力の特性を知って、一人一人の生徒がよりよく自己を高めていくための指導のあり方を学ぶとともに、実習生自身が教育実習の意義とその重要性を認識し、自己の能力や態度、技術について反省し、自己研鑽の必要性を知ることを目的の一つとしています。また、教科等の指導や生徒指導、学級経営や事務処理など、実践を通して学び、個性を生かした自主的、創造的な実践力を身に付けられるように実習を行っています。本校で学んだ実習生が、長野県下各地や長野県を越えた学校現場で活躍しています。

### (2) 教育研究

文部科学省指定の研究開発学校として、幼小中12年間の連続的な学びを考える、幼小中一貫教育を目指し、その中で、校種を越えた連携のあり方や一貫教育のあり方を提案することや実社会との接点を重視した課題解決型プログラムに係る実践研究を通して、先進的な教育の理論及び方法について実践研究を行い、その成果を発信していきます。

また、本年度の研究仮説（課題解決の手段）として、①ICT活用による、理数・技術教育、外国語教育の互惠的な充実②学びの領域・教科等の新設による「学びの総合化」の2点を考えていますが、②については、中学校における、教科横断的な学習による総合的な学習の時間の完成を目指し、研究を重ねていきたいと考えています。

### (3) 現職教育

上記に示したように、本年度から新たに「附属学校園ラウンドテーブル」を開催します。日頃の実践から見えてきた生徒観や教材観を互いに語り合い、聴き合うことで、自分自身の教師としての歩みを振り返り、これまでの見方や考え方を再構築していく場にしたいと思います。附属学校園を拠点として、長野県独自の教職員コミュニティの構築を目指していきたいと考えます。

未来を拓く子どもの育成を支える教員の養成、先進的な教育の理論及び方法について実践研究をこれからも大切にしながら、長野県内、県外において存在意義をもつことができるようにしていきたいと考えます。